

タジキスタン通信

Vol.6 (2026.6)



マン ファルハンギ ジョポンロ ドゥスト メドラム (日本文化が好きです)

わたしが配属先のロシアタジクスラブ大学での活動を開始したのは2025年2月。その際、大学からは「日本文化の講座を定期的で開催してほしい」という要望がありました。わたしは、かれこれ30年近く外国語としての日本語を教えています。お恥ずかしい話、日本の伝統文化に関する素養は一切ありません。お茶やお花ができるわけでもなければ、着物すら着られません。



そんなわたしが果たして日本文化を伝えられるのか、たいへん困りました。しかも一年に1回ぐらいのイベントでならともかく定期的とは…。そんなときに同僚のタジク人の先生から、「タジク人学生は折り紙が大好きですから、まずは折り紙から」との助言を受け、折り紙ならなんとかなるかな、と思いつつ第1回のテーマを折り紙にしました。とはいえ、折れるのは鶴だけです。

講座では、ただ折り方を教えるのだけではなく、折り紙の歴史やその背景などをスライドで説明しました。もちろん説明は日本語ですが、同僚のタジク人の先生がロシア語に通訳してくれました。ひととおり説明したあと、いよいよ折り紙の実践となりました。折り紙といえばやっぱり鶴です。日本人なら小さな子どもでもすいすい折れてしまうほど、わたしたち日本人の生活にしみついている折り鶴。そしてなんととっても千羽鶴は平和の象徴です。折り鶴のことはよく知らなくても、ヒロシマの少女・貞子さんのことは知っている学生も少なくありません。でも鶴の折り方は、よく考えたらたいへん複雑な手順…。折り紙が初めての学生もいれば、小学校や中学校時代に経験した学生もいて、苦労の度合いはひとそれぞれ。それでもみなさん、なんとか完成にこぎつけました。



折り鶴が完成したあとは、昼食タイム。この時間も日本文化を体験すべく、海苔巻きを箸で食べる練習をしました。海苔巻きはこちらで手に入る材料(お米、海苔、ツナ缶、マヨネーズ、しょうゆ、きゅうり、カニカマ)を使って、わたしが作って持ち込みました。



箸がなかなかうまく使えず、手で食べる学生もいましたが、海苔巻きならそれも許されるでしょう!

日本語学習のきっかけをたずねた時、当然「日本のアニメが好きだから」という答えを予想するのですが、意外にも「日本の文化や風習に興味があるから」と答える学生が多いです。現在はインターネットのサイトで海外のさまざまな情報を映像とともに知ることができますが、タジキスタンにいる限り実際に日本文化を経験する機会はまだまだ少ないでしょう。これからも学生たちには体験の機会を提供していけたらと思っています。